

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500053		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム南流山		
所在地	千葉県流山市鱈ヶ崎1311		
自己評価作成日	平成27年1月29日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://mcs-ainoie.com/ins86.html
----------	---------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成27年 2月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.入居者様の一人ひとりを知る事で、その人らしい生活が出来る様、最大限に努めております。施設に入居しているから出来ないのではなく、『施設に入居したからこそ出来る。』と思っております。ご家族様・入居者様の想いが実現出来るように『歩けない・どこにも行かれない』等の悲しい声が聞かれないう、お手伝いをさせて頂き、施設での生活が少しでも良かったと思えるよう喜怒哀楽を共に感じながら努めております。</p> <p>2.一人ひとりの居場所があるよう、役割を大事にしております。生活の場・地域社会などといった形で外出などの機会作りにも最も力をいれております。</p> <p>3.職員が心地良く働け、やりがいを感じて頂けるよう介護職員としての日々のスキルアップ、また高齢者のための心身のケアも研修を通して職員に伝えていると考えております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の3つの基本理念を基に「入居者一人ひとりをよく知り、個々を大切にされたケアを実践します・入居者と職員の笑顔溢れる心地よい明るいホームを創ります」とのホーム独自の介護方針を掲げている。全職員が法人の運営理念等を記載したクレドカード等を持参・各自の名刺の裏にも記載し、会議等の際に唱和し意識の統一を図っている。法人として毎年1回利用者アンケートを実施し、全国250事業所の各部門賞を決めているなかで、当事業所が総合1位になり、家族の満足度などで職員の努力が認められた。その他「一年中綺麗な花が観賞できる」特別賞も受賞した。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社、事業所の運営理念は常に申し送り、会議の際に唱和を行っております。また、休憩所にも掲示していることにより、職員の意識の統一を図っております。	法人の3つの運営理念と事業所独自の2つの介護方針を拡大して事務所や休憩所に掲示し、全職員が理念を記載したクレドカードを持参・各自の名刺の裏にも記載し、ホーム会議や研修時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の小学校の行事にも積極的に参加しています。近隣小学校の下校時間に、地域活動の一環として、「見守り隊」を行い、継続出来る様支援しています。	近所の小学校の演奏コンクールでの音楽発表会で利用者が歌ったり、運動会、焼き芋大会、餅つき、バザー等の行事に多くの利用者が参加し、夏祭りでは、家族と共に綿あめ、かき氷、焼きそば等を楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターが主催する「認知症の会」の出席、民生委員を通じて行事などの参加促進に取り組んでおります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、入居者様状況など写真も交えながら報告を行っています。状況に沿った議題をしています。例えば、看取り・事故について	市職員、包括支援センター、自治会役員、民生委員、家族、入居者等の出席を得た運営推進会議では、活動報告、行事・写真をスライドでテレビに映したり、事故・入居状況等の報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いし、ご家族様にも目を向けて頂けるよう環境作りを行っております。また、グループホーム連絡会など交流の場を用いて積極的に関係性を密にしております。	県から通知があり、京都に本部がある公益社団法人認知症と家族の会に入会した。南流山センターで開催された家族の会に参加し、包括支援センターへ相談される方の実情を聞いて意見交換をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議など意識の統一性を図り、基本方針の提示を行っております。また、ケア推進課など相談窓口などであり身体拘束促進運動を会社全体で行っております。	身体拘束排除方針を事務所スタッフルームに掲示し、社内マニュアルに基づいてオリジナルを作成し研修やホーム会議等で随時徹底されている。夜間転倒防止のため、家族と相談し5人の利用者に足元センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の始まりとされる声掛けに気を配り、全職員虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議内で場を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書、契約書の読み合わせを行い、不安や疑問に対して説明をし、理解、同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置し、会社として年1回のアンケートを行っております。ご家族様が来設の際には積極的に話し掛けるように心掛けております。	法人として毎年1回利用者アンケートを実施している。当事業所は、全国250事業所の中で総合1位になり、ご家族様満足度など職員に関して認められた。また、各部門で「一年中きれいな花が観賞できる」特別賞も受賞した。家族会や運営推進会議でも報告した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談、年1回の職員アンケート、職員の意見を反映出来る様な取り組みを行っており、会議等でも発言しやすい環境作りに努める。	2カ月に1回エリアマネージャーが医療・看とり・入院・骨折に対する不安や人事に関しての個人面談を行い、会議ではユニットリーダーが進行役で職員の意見を引き出している。また、議事録は全員に回覧している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケート、表彰制度、個人能力評価等があり、個々の実績、勤務状況の把握に努め、職場の環境整備を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社には、標準介護教育カリキュラムがあり、ホーム内で利用しております。全体会議などのホーム内研修、外部研修の告知を行い、受講の機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホーム研修、合同イベント等を用いて、相互の問題について考え合う機会を月1回作っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすく、なるべく気を使わずに済むような環境作りを行い、職員同士の情報交換により、更に安心して生活していただけるように関係を密に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時、契約時等を通じ、ご家族の不安、要望に耳を傾け、良好な関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	丁寧なアセスメントを心掛け、ご本人、ご家族のニーズを探り、把握に努め、個々の必要とするサービスに対応できるように取り組んでおります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場の主役が入居者様であるように、一人ひとりの役割の尊重を行い、共に支えあう環境に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のホーム便りで、ホームや入居者様の近況を報告し、ご家族が参加できる行事を設けております。また、ご入居者がいつ来られても入居者様とゆっくり過ごせる環境作りに努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人が、いつ来られても、職員が対応出来るように配慮しております。映画、音楽コンサートへ出かける等、ご家族の協力の下、入居前の関係の継続に努めております。	年賀状作りのお手伝いをする等、馴染みの関係を大切にしている。ボランティアを利用し、車で浅草へ行ったり、映画や音楽会に行くなど、個別レクリエーションも大切にしている。地元へ下着や茶碗を買いに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの配置、席替えを行っております。買物等も交替で行くように心掛け、外出レクなどは、全員で行く事が出来るように配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援を行ない、築いた関係は大切にしていこうに努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半年に1度センター方式を使用しております。職員間で情報を共有し、本人の要望や意向の把握に努めております。	認知症ケア学会のセンター方式を活用したケアプラン作成に取り組み、ケアマネジャーによる本人へのアプローチから記録に盛り込んでいる。又、家族から、昔やっていた事などを情報として頂き、ケアへのヒントとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで、それまでの暮らし方やサービス利用の経過を把握し、ご家族の面会時には、少しでも話をするように心掛け、過去の生活についての情報収集に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量、必要時水分量、排泄回数、バイタルなど、毎日チェックを行なっております。その日の過ごし方は個人記録に記入し、現状の把握を欠かさないようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、ユニットリーダー(計画作成担当者)が中心になり、会議等で職員間の情報共有を行い、計画に対してのモニタリングを行なっております。必要に応じて、往診医を交えてご家族とのカンファレンスを行なっております。	利用者主体の介護計画を作成する為に日常的に行う声掛けなどの情報を職員間で共有できるように心掛けている。月に1回は職員全体で意見交換やカンファレンスを行い、必要に応じ往診医の先生や個人契約の訪問看護師にも参加頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変事項や、会話中のちょっとした変化、行動の変化を個人記録、日報に記入し職員間の情報の共有を行なっております。それを基に計画の見直しを行なっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況により、往診だけでなく、受診に付き添うなど、柔軟なサービス体制をとっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園芸ボランティアをお願いしたり、地域新聞などを有効活用し、協働に努めております。また社会との繋がりが切れないよう日常生活支援を行っております。傾聴・協議会ボラも		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問美容を利用したり、朝の整容時は鏡の前で自分の姿を見ながら行なうようにしております。服装についても、個人の意思を尊重しております。	法人の指定医の往診による定期診断を月2回行っている。かかりつけ医への通院の時は、女性ばかりなので、外出時の化粧・服装等できるだけ自分で行うようにしているし、診断結果は本人には口頭で、家族に手紙で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護用の記録を行い、毎週木曜日には、どの職員が担当になっても訪問看護師に報告が行なえる環境に努めております。またそれに伴い、一人ひとりの知識の向上に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院希望先を把握しており、入院の際には担当医、ご家族様との連絡を密にししながら早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における医療体制指針」を文書にて説明し、同意を得ております。終末期を迎える際はご家族様とのカンファレンスを行い、事業所で最大限に取り組める範囲で支援しております。	入居時にご家族との同意署名を頂いている。終末期の入院もご家族の意向を十分聞きながら対応を行っている。又、急変時には職員には絶対に1人では対応しない事、夜間であれば近所の職員を呼ぶことを徹底している。看取りの時は入居者、職員全員で悲しみを分かち合う事にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修や外部研修を行い、全職員、救命講習を受けております。救急対応マニュアルを基に、24時間体制で往診医との連絡がとれるようになった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、消防計画に基づき訓練しております。また地域の協力体制が行なえるよう、日々の地域交流の場を大切にしております。夜間想定・地震想定・避難場訓練	地域からの参加を呼び掛けた年2回の消防訓練以外に、夜間災害なども想定し隣近所とのコミュニケーションを日頃から重視している。設備等の点検は毎月、非常食は2週間分備蓄している。	利用者家族との連絡網は存在するが、一度も実施たことが無いとのことで、一度訓練で実施してみる事が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、鍵のあるところに保管しております。職員の言葉かけにも気を配り、人格を損なう事の無いように努めております。	個人情報の夜間鍵付ロッカー保管、人格を損なわない声掛け、下の名前ではなく苗字のさん付けで呼ぶ等、一人ひとりの人格尊重には気配りを行い人権意識が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時間には、何種類かのメニューから選んでいただくなど、常に自己決定できるような会話の工夫を行なっております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の居室での休息、夜の入浴等、入居者様本人のペースに合わせた支援に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用したり、朝の整容時は鏡の前で自分の姿を見ながら行なうようにしております。服装についても、個人の意思を尊重しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は個々の能力に応じて、できる事をしていただいている。定期的に入居者様の好みの食事を作り、外食の際には、好きなものを個別に選んでいただくようにしております。	利用者本人が主婦であった頃の経験をもとに、「おふくろの味」の事例発表会(食事会)を行なったり、一緒にそば打ちをやったりして楽しんでもらっている。天気の良い日は駐車場広場で食事をしたりファミレスでの外食等で、新しい発見もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	買物の際にバランスを考えた食材選びをし、食事量、水分摂取量のチェックは毎日行なっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行い、週1回訪問歯科往診を用いて適切な管理指導を受けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に個々のパターンを把握しております。夜間の様子は職員間で申し送りを行い、失敗を減らし、おむつ等には頼らない対策を考えています。	個人の排泄時間はきっちりと把握されている為、日中は布パンツで過して頂く。万が一失禁が合ってもトイレで排泄してもらい、声掛けの時間を改善するなどの工夫も行っており、おむつには頼らない介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、オリゴ糖、ヤクルトを用い、すぐに薬に頼れない様に心掛けております。運動の為、極力外に出る機会を作っております。3月からは乳酸菌FK-23使用		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴中は、本人の意思を尊重し、職員が必要以上に介助を行なわない様に心掛けております。また、夜の入浴等、時間帯も幅広く対応しております。	入浴時間は基本的に本人の希望に添って決めており、見守りはするが、介助は必要以上には行わないことで自立に向けたケアを行っている。入浴回数は週3回を基本とし、遅番、早番のスタッフが時間に合わせて対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間を設ける事をせず、本人の意思に任せて休んで頂く様にしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の使用について理解し、往診医へ相談しております。変更があった場合も、全職員が把握できる体制になっており、その後の様子観察を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の思考を尊重し、ピアノ、書道、絵画、写真、居室に置き、個人の趣味を活かせる様に配慮しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出かけ、買物の際には入居者様と一緒に行動しております。月に1度以上は全員で観光等の外出をし、同時に外食もしております。また個別でもその機会を増やすように努めております。	月に1度は観光を兼ねて遠出をするが、日常的には買い物、お散歩での外出支援を行っている。近くにあまり大型スーパー等が無い為、食材の買い出しの時は、何人かで車で出かける場合が多い。又、地域主催の音楽会、合唱コンクールを聞きに出かけることもあり、外出機会を増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様には、常日頃自由に使えるお小遣いがある事を伝えております。外出時には個人の私物財布を持参し支払いなどは入居者様に行なっていただけるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話は、いつでも使えるようにしており、いつでも使えるようにしており、外出先で買ったご家族へのお土産がある時などは、すぐに本人から連絡をして頂き、自由に連絡がとれる様になっている事を分かって頂く様に努めております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	階段や通路には行事の写真を貼り、生活感のある雰囲気を作っております。入居者様と一緒に作る手作りカレンダーや、その月の行事内容を掲示し、季節感を出すように努めております。	共用空間の装飾はあまりやらず、写真の貼りだしが多い。廊下には入居者の手芸作品や、絵画、表彰状などの貼りだしをして、話題を提供できる様に工夫している。又、職員と一緒に作ったカレンダーなどには施設の行事予定などを書き込み、季節感を出すようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには誰もが自由に使えるソファや椅子を用意しており、晴れた日にはベランダに置いてあるテーブルの回りで季節感を得ながら会話やお茶を楽しめる様にしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者様、ご家族の置きたい物を自由に置いて頂いております。また、お客様が来られた時にゆっくりできるスペースも確保しております。	昼間は殆ど共用スペースで過される方が多い為、居室には、家族・本人の要望に沿って電子ピアノや仏壇を置いている利用者もいる。特に持ち込み規制は行っておらず、お客様とゆったり過ごせるスペースが確保できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りだけではなく、見守りながら物伝いに歩ける様に家具の配置を工夫したり、トイレや居室も本人に分かるようにマークや表札をつけております。		

(別紙4(2))

事業所名 愛の家グループホーム南流山

作成日: 平成 27年 3月 29日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	前年度に引き続き、事業所と地域との関係性をより密に深め、現時点において、見守り隊や自治会などの地域交流は行なっているが、事業所から地域に向けての積極的姿勢に欠けている。	事業所から地域に向けて、いままで以上に交流の場などを設け発信していく。	1. 入居されている方の特技や趣味を用いて、書道教室などを行なっていく。 2. 認知症サポーターや傾聴ボランティアの方々とふれあいの時間を作る。 3. まだ、認知症の認知度が低い中閉鎖的なホームの打開の為、地域に向けたサポーター講座開催により認知症の理解を深めていく。	6ヶ月
2	19	管理者の変更、信頼関係に努め、一人ひとりのご家族様と積極的に関わり、現在の悩み・不安などに目を向けて行く事が必要である。	事業所・地域・ご家族様と入居者様を支えていく人達がひとつのチームとなり、ケアしていく。	地域運営推進会議だけでなく、日々のレクリエーションなどご家族様も参加を促し、交流の場を設けていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月